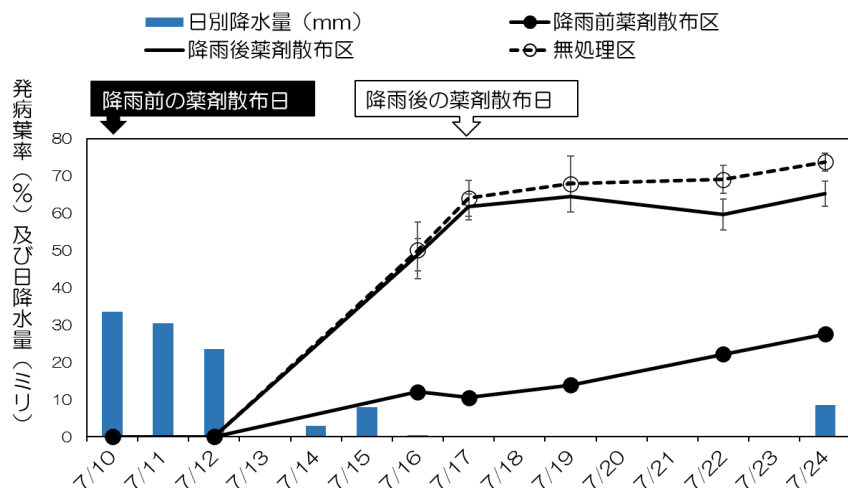


降雨前に有効な薬剤を散布することで キュウリ炭疽病を抑制できます



キュウリ炭疽病
による被害



降雨前の薬剤防除による炭疽病の被害拡大抑制効果

開発のねらい

キュウリ炭疽病は、多発すると激しい葉の黄化枯死や果実被害をもたらし、露地栽培キュウリにおける大きな減収要因となります。近年、炭疽病の発生が目立ってきたため、多発要因や有効薬剤、薬剤防除のタイミングを明らかにして、炭疽病の被害拡大を抑えるための新たな防除対策を開発しました。

新技術の概要

- 県内の一部圃場でゲッター水和剤の耐性菌が発生しており、多発の一因となっています。
- ゲッター水和剤の耐性菌には、アミスター20フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ミギワ10フロアブル、ペンコゼブフロアブル、セイビアーフロアブル20、テーク水和剤、ベルコートフロアブル及びダコニール1000が高い予防効果を示します。
- 降雨前に薬剤防除を行うことで、降雨による被害拡大を抑えることができます。

活用場面

本技術は岡山県内の露地キュウリ栽培に適用でき、炭疽病に対して安定した防除効果が得られることで、キュウリの出荷量増加と農家所得の向上が期待できます。なお、作用機構が同じ薬剤を繰り返し使用すると、耐性菌が発生しやすくなりますので、使用する薬剤の作用機構分類（FRACコード）にご留意ください。